

# 令和7年度愛知県幼児教育センターアンケート調査結果まとめ

愛知県幼児教育センターでは、令和7年10月に名古屋市を除く53市町村と幼児教育施設を対象に幼保小連携接続に関するアンケート調査を実施しました。回答を得た53市町村と、615幼児教育施設（幼稚園・保育所・認定こども園：回答率48%）の現状の集計結果を報告します。

## ○施設別参加園数（合計 615園）

公立幼稚園	16	公立保育園・認定こども園	278	公立幼保連携型認定こども園	23
私立幼稚園	117	民間保育園・認定こども園	107	私立幼保連携型認定こども園	74

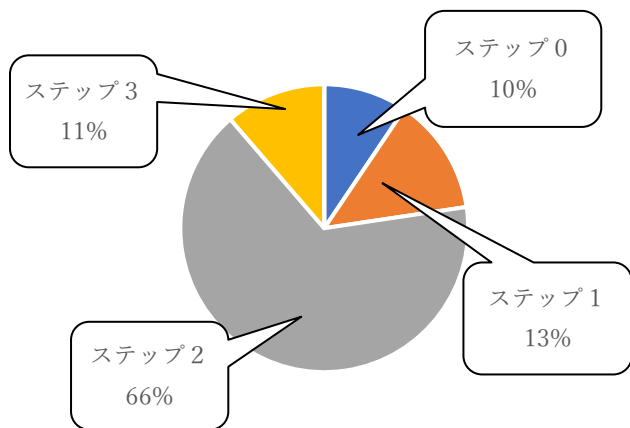
## 1 小学校との連携・接続について

### <アンケート回答結果>

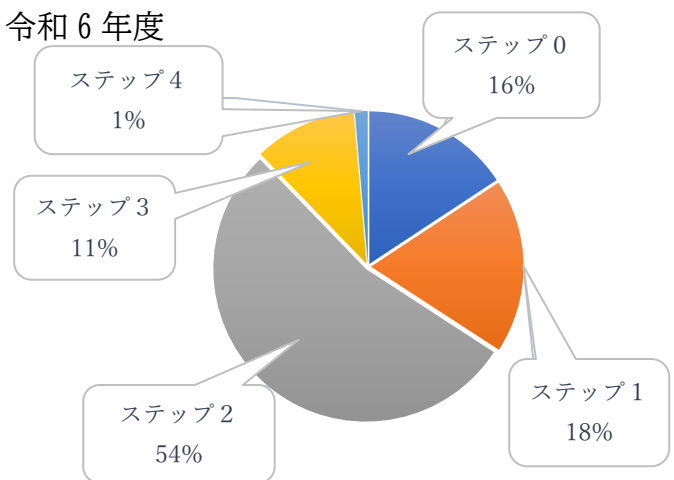
ステップ内容	自治体	回答園
ステップ0：連携の予定・計画がまだない	5	64
ステップ1：連携接続に着手したいが、まだ検討中である	7	96
ステップ2：年数回の行事・研究会などの交流はあるが、接続を見通したカリキュラムはない	35	379
ステップ3：交流が充実し、接続を見通したカリキュラムの編成・実施が行われている	6	53
ステップ4：接続を見通し編成・実施がされたカリキュラムについて、実施結果を踏まえさらにより良いものとなるよう検討が行われている	0	23
合 計	53	615

### (1) ① 自治体の取組状況

#### 令和7年度



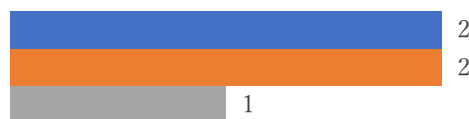
#### 令和6年度



（考察）令和6年度と比較するとステップ0、ステップ1が減りステップ2が増加した。自治体の理解が進んでいると考えられる。ステップ3の増加は見られず、カリキュラムの編成が課題だと考えられる。

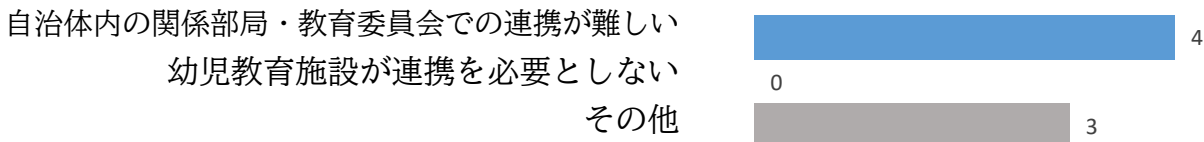
### (1) ②ステップ0と回答した理由

自治体内の関係部局・教育委員会の連携が難しい  
 連携の必要性を感じない  
 その他



その他の内訳 具体的な方針や体制が未定

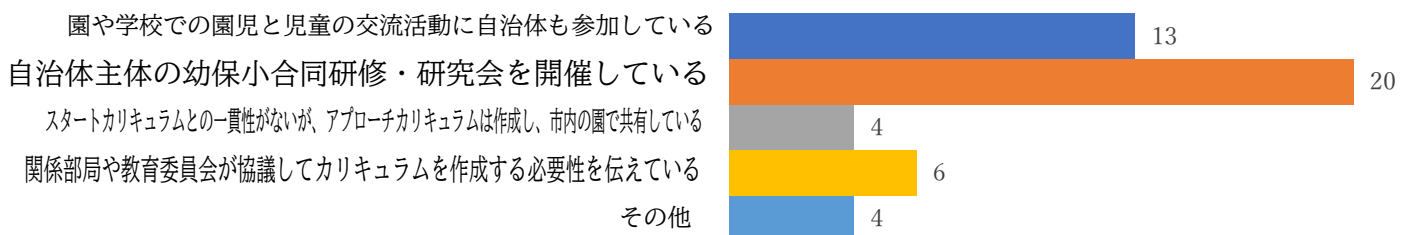
(1) -③ステップ1と回答した理由



**その他の内訳** 今はないが今後は連携の予定はある等

(考察) ステップ0, ステップ1と回答した自治体は「関係部局での連携が難しい」という回答が多い。「幼児教育施設が連携を必要としない」という回答は0で、幼児教育施設は連携を必要としていることが伺える。

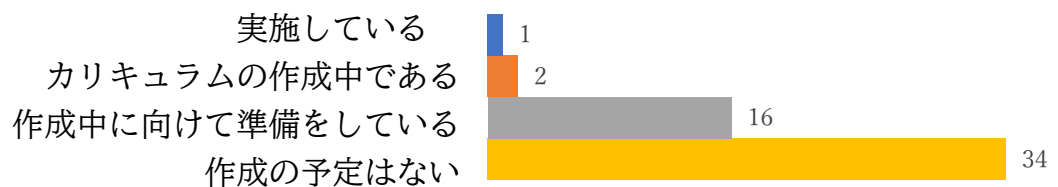
(1) -④ステップ2と回答した現状の取組 (複数回答)



**その他の内訳** 保小での情報交換は実施している等

(考察) 幼保小合同研修・研究会は20の自治体で行われており、園児と児童の交流も13自治体で行われ、研修や交流は普及している現状が考えられる。子供同士、教員同士の交流から架け橋プログラムを意識した交流へと質の転換が課題と考えられる

(2) 小学校区における「架け橋期のカリキュラム」の実施状況について



(考察) 「架け橋期のカリキュラム」作成に向けては、予定がないという回答が多い。まだ、「架け橋期カリキュラム」について作成の必要性を感じている自治体が少ないことが伺える。

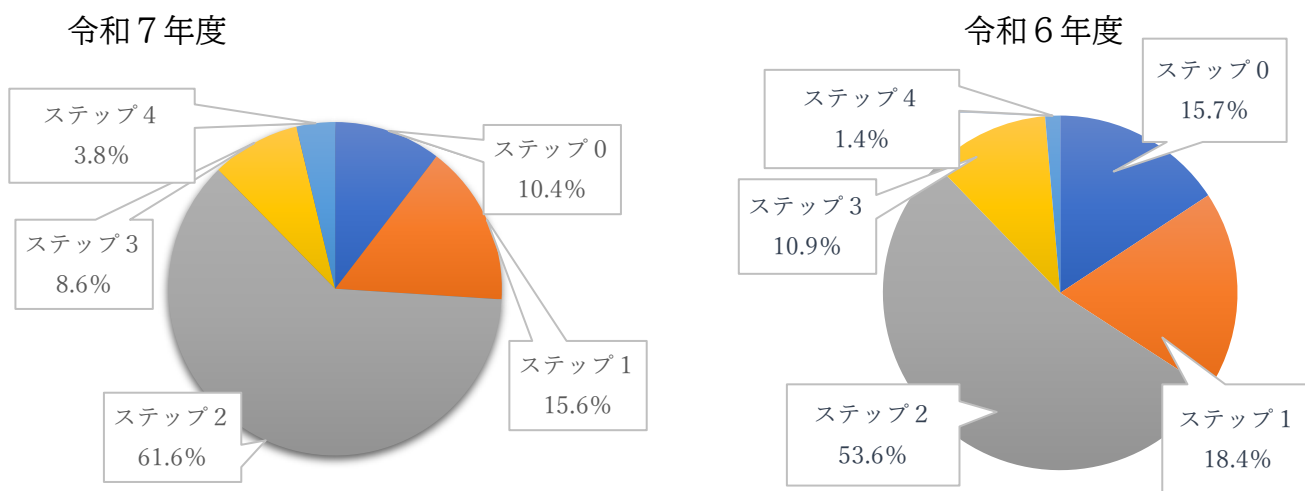
(2) -①「作成に向けて準備をしている」と回答した自治体が具体的に進めている内容 (自由記述より一部抜粋)

- ・「架け橋カリキュラム」の理解・作成のための推進活動をしている。
- ・来年度関係部局での代表者と架け橋期のカリキュラム検討会を立ち上げ予定である。
- ・小学校と保育園がそれぞれに行事に参加し、カリキュラム作成の基盤づくりをしている。等

(2) —② 「作成予定はない」と回答した理由（自由記述より一部抜粋）

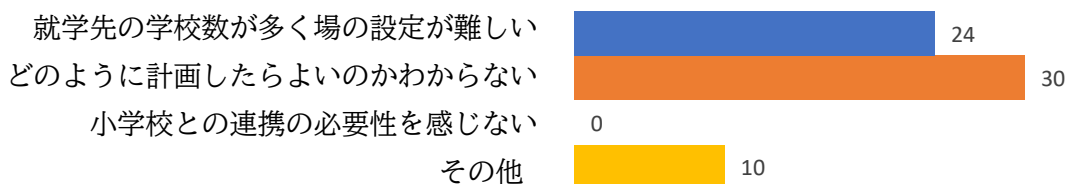
- ・自治体内の関係部局・教育委員会での情報共有や連携が難しい。
- ・カリキュラム作成等の論議が十分進んでいない。
- ・必要と感じていない。
- ・町内の保育施設に通う大半の園児がそのまま同学区に小学校に入学するので情報共有・連携はできている。
- ・作成をしたいと思っているが、準備まではできていない
- ・教育委員会に対して必要性を伝えている段階である等

(3) —① 幼児教育施設の実施状況



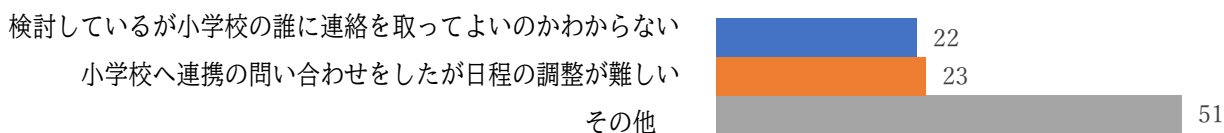
(考察) 昨年度と比べると、ステップ0、1と回答した園は8.1ポイント減少し、ステップ2の回答園が8.0ポイント増加しており、各園での取組が徐々に進み始めていると考える。

(3) —② ステップ0と回答した理由



**その他の内訳** 具体的な会議の設定がない 学校との接続機会が設けられない等

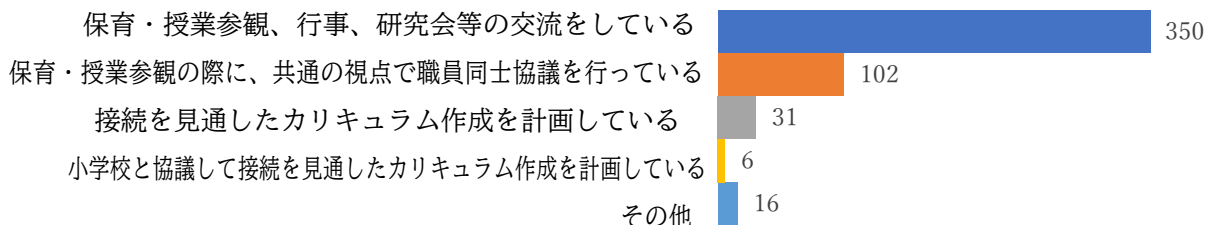
(3) —③ ステップ1と回答した理由



**その他の内訳** 関係部局にアプローチしているが体制が整っていない。幼保小間の取組の温度差がある等

(考察) ステップ0・1と回答した園における「どのように計画したらよいかわからない」「小学校へ連携の問い合わせをしたが日程の調整が難しい」などの理由から、連携は考えているが計画を具体化することや、園から学校教育課や小学校へ連絡調整する際の困難さがあると考えられる。

### (3) —④ ステップ2と回答した現状の取組 (複数回答)

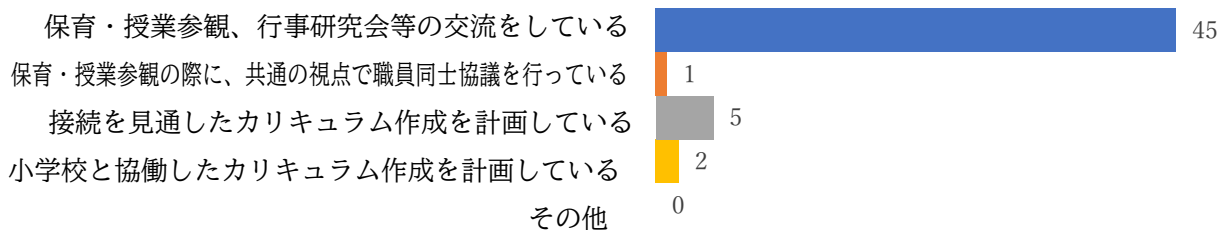


**その他の内訳** 就学前の情報交換はある。発達の緩やかな子の情報交換のみ実施している。小学校教諭が年長児に対象にして出前授業を実施している等

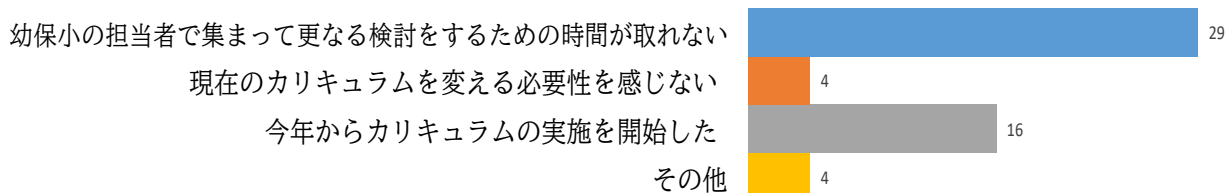
(考察) 保育・授業参観、行事、研究会等の交流の場を設けている園は多く、その際に共通の視点で職員同士協議を行っている園は少ない。職員交流の際の共通の視点設定、協議の場の設定が課題と考えられる。

### (3) —⑤ ステップ3と回答した現状の取組 (複数回答)

#### (ア) 園の現状の取り組みについて



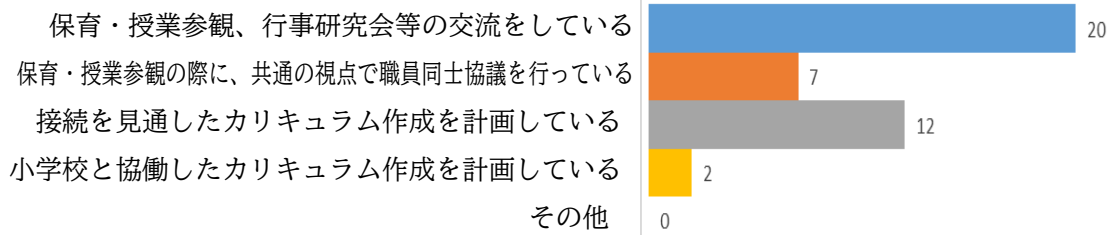
#### (イ) 接続可能なカリキュラムの編成・実施に至っていない理由



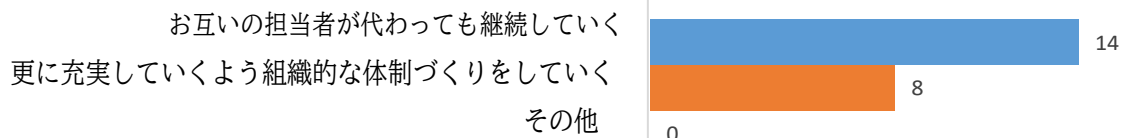
(考察) ステップ3と回答した園では保育・授業参観、行事研究会等の交流をしている」の回答が多い。「持続可能なカリキュラムの編成・実施に至っていない理由として33園が回答している。ステップ3は「交流が充実し、接続を見通したカリキュラムの編成・実施が行われている」内容なので、現在のカリキュラムが持続可能ではないと、捉えていることがわかる。

(3) —⑥ステップ4と回答した現状の取組（複数回答）

(ア) 園の現状の取り組みについて



(イ) 今後どのように連携・接続の取組を継続していくかについて



（考察）ステップ4と回答した園では「保育・授業参観、行事研究会等の交流をしている」「お互いの担当者が代わっても継続していく」という回答が多く、組織的な取り組みができていることがうかがえる。